０９・はじめて上になって騎乗位と正常位貝合わせセックスするけど負ける

本編『０８・不思議の国の楽園じゃない場所）』から数分後。
とある年の春。
五月二十八日。十七時近く。
場所はとあるホテルの一室。

主人公とミネルヴァ、ホテルのベッドの前で、立ったまま抱き合っている。
その体勢から、ミネルヴァが主人公をベッドに座らせる形で密着する。
今すぐに、もっと触れ合いたい。
主人公がそれを伝えるよりも早く、ミネルヴァがそうしてくれる。

ＳＥ１　主人公がベッドに座る音
【最初から最後まで流す】

●左　０センチ
「【※息づかい※　のみで表現する。

うっとりと呼吸を漏らす。
主人公の匂いを感じられる事が、とても幸せなので】
んっ……❤
【※3回※　鼻呼吸する。
密着して、うっとりと主人公の匂いを吸い込む】
すううっ、ふーっ……❤
ふー。
【※1回※　耳にキスする。
甘えるような、戯れるようなキス】
……ちゅ❤」

〈主人公〉
「……ぁ❤」

そんなミネルヴァは、まだベッドに腰掛けない。
少しかがむ形で主人公を正面から見つめ、妙に楽しげに微笑んでいる。
ミネルヴァ、『左0センチ』から『正面30センチ』に移動して話す。

●正面　３０センチ
「【くすくすと嬉しそうに微笑む。
主人公がたったこれだけでびくんと反応した事が、とても嬉しいので】
ふふふ……❤」

『なあに？』
『そんなに嬉しそうにしちゃって』
『……まぁ、わたしも、今が』
『今がとても、幸せだけど……』

言葉でそう伝えようとして、主人公はやめた。
代わりにミネルヴァの首に腕を回し、その唇を求める。

ミネルヴァ、『正面３０センチ』から『正面０センチ』に移動してキスする。
ミネルヴァが立った状態からかがんで、ベッドに座る主人公にキスしている状態。

●正面　０センチ

「【※8回※　キスする。
甘々な、じゃれつくようなキス。
主人公と仲直りできた事、主人公が再び自分を受け入れてくれている事が、たまらなく嬉しいので。
主人公の両肩に手を置いて、しっかりキスしている。
主人公は首に腕を回して抱きつき、とてもあまあまで幸せなキス】
ちゅっ❤
ちゅ。ちゅっ❤　ちゅっ。ちゅっ❤
ちゅ❤
んっふ……ちゅ❤
【※6回※　呼吸する。
興奮気味に、うっとりと呼吸を漏らす。
主人公に触れ、感じられる事が、とても幸せなので】
ふーっ、ふーっ。ふーっ……❤
はぁっ……❤　はぁっ……❤　はーっ……❤
【うっとりとため息をつく。
心底嬉しそうに。
数日ぶりに主人公と触れ合える事が、とにかく嬉しいので】

はぁ……三日ぶり。
【※6回※　キスする。
先ほどよりもねっとりとした、音を立てるディープキス。
元の関係に戻れたからには、一刻も早く主人公を感じ、触れて、堪能したいので】
はぁんむ……ちゅっ❤
ちゅるるる……ちゅぷっ❤
れぇんろ……ちゅぷっ❤
【うっとりと。
『していなかった』とは『キスもセックスしていなかった』の略】
何だか。ずっとしていなかったみたいに恋しいわ……❤
【※3回※　キスする。
軽く触れるだけだが、とにかく嬉しそうで、はしゃいでいるキス】
ちゅ❤
ちゅ。ちゅっ❤」

〈主人公〉
「……わたしも。すごく、久しぶりみたいな感じ……❤」

返事をするだけで、笑みがこぼれる。
倉庫での一件からこの瞬間にたどり着くまでの時間は、永遠のように長かった。
主人公はあの車窓から見た景色を、きっと生涯覚えているだろう。
あの時の痛みも含めて、今日という日はきっと忘れられない一日になるのだ。

●正面　0センチ
「【嬉しそうに聞き返す。
きちんと聞こえていたが、同じ気持ちでいた事を、何度でも確かめたいので。
その位ミネルヴァは今嬉しくて、幸せなので】
……あら……貴方も？
貴方もそうなの？
【とても幸せそうに微笑む。
主人公と元通りの関係に戻れた実感がわいてきたので】
ふふ……❤　私達、一緒ね」

〈主人公〉
「うん。……一緒よ……❤」

だからこそ今は、ほんの一瞬の間さえ惜しい。
二人は離れていた時間を埋めるように、また、何度もキスをする。

●正面　0センチ

「【※6回※　キスする。
ねっとりとした、甘々なディープキス。
『唇を通じて、主人公さんの事を、少しでも沢山感じたいの』と言わんばかりのキス】
ちゅ❤　んうう……っ❤　ちゅ❤
んっふ……ちゅ❤　んんんう……❤
【※5回※　呼吸する。
ゆっくりと、だが興奮気味に、うっとりと呼吸を漏らす。
主人公に触れ、感じられる事が、とても幸せなので】
はぁ、はぁ、はぁ。
ふううう……ふーっ……❤
【とても嬉しく、幸せそうに。
ここに至るまでは、辛いすれ違いを経てしまった。
だが、今、これまでにない位、主人公と心が通じ合って、一つになれている気がするので】

今……凄く。心が一つになれている気がする。
好きよ……愛してる。
【言いながら、そのままキスに移行する感じで】
だーい好き……
【※４回※　キスする。
軽く触れるだけだが、とにかく嬉しそうで、はしゃいでいるキス】
ちゅ❤
ちゅ❤　ちゅ❤　ちゅ❤
【※息づかい※　のみで表現する。
とてもゆっくりと、うっとりと呼吸を漏らす。
嬉しくて、幸せでたまらないという感じの呼吸】
ふーっ……❤」

ミネルヴァが少しだけ頭を動かし、髪にキスをする。
それから愛おしそうに、すんすんと髪のにおいをかぎ始める。
そうだ。ミネルヴァはとにかく、主人公の髪の毛が好きなのだ。
だから主人公は『わたしはきっと、一生長い髪のままでいるのでしょうね』と思う。
心からそうしたいと思うし……好きな人の好みに素直に染まる事が、今は幸せなのだ。

主人公はもう、以前よりもずっと自分の事を知っている。
『自己主張が激しくて、流される事が嫌い』。
そんな女性は、本当はどこにもいなかった。
むろん、流されてはいけないところで立ち止まれたからここにいるわけでもあるのだが
……つまり、自分という人間は一面ではないのだ。
自分が今まで自分だと思って見ていた部分。
それ以外にもたくさんの主人公がいて……中には、ちょっと優柔不断だったり、恋人の提案ににやにやとまんざらでもなく流されたり、そういう自分もいて。
それを教えてくれたのが、ミネルヴァなのだ。

●正面　０センチ　上１０センチ
「【うっとりと嬉しそうに。
感嘆のため息を漏らす】
あぁ……❤
【※３回※　髪にキスする。
優しく何度も触れるキス】
ちゅ。ちゅ。ちゅっ❤
【うっとりと幸せそうに。

『心底安心する』という感じで】
貴方の匂い。安心する……❤
【※3回※　鼻呼吸する。
とてもゆっくり呼吸する。
主人公の髪の毛の匂いをうっとりとかぐイメージで】
すーっ。ふーっ……❤
すーっ……❤」

ミネルヴァ、『正面0センチ　上10センチ』から『右0センチ』に移動して話す。

●右　0センチ
「【うっとりと幸せそうに。
『心底安心する』という感じで。
今の素直な気持ちを述べる】
貴方の髪も……お耳も。
背中も、肩も……❤
触れていると、凄くほっとするの……❤
【※3回※　鼻呼吸する。

とても深く吸って吐く。
主人公のにおいをうっとりと堪能する感じで】
すーっ❤　はー❤　すううう❤
【※6回※　呼吸する。
少し早く、荒い呼吸。
うっとりとした甘い呼吸】
はぁ、はぁ、ふー。
はぁ、はぁ、ふーっ……❤」

SE2　ミネルヴァが、主人公をベッドに押し倒す音
【最初から最後まで流す】
【小さめの音量で流す】

SE3　ベッドが小さくきしむ音
【最初から最後まで流す】
【小さめの音量で流す】

SE4　ミネルヴァが、主人公の身体をまさぐる音

【最初から最後まで流す】
【繰り返して流す】
【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】
【▲1　でフェードアウトする】

ミネルヴァ、『正面0センチ　上10センチ』から『右0センチ』に移動して耳舐めする。

●右　0センチ
「【※しばらく※　耳舐めする。
夢中で、いきなりしっかり舐める。
我慢しきれず、耳の穴が目の前にあったので舐めてしまうという感じで】
んちゅっ……れろっ❤
れろれろれろれろ……❤れろっ❤
くぷくぷくぷ……くぽっ❤
れぇろ、れぇろ、れぇろっ……❤
【※1回※　呼吸する。
荒い、興奮気味の嬉しそうな呼吸】
はぁぁっ……❤」

〈主人公〉
「ぁっ……❤」

そして主人公は、今日も知るだろう。
これまで知らなかった自分、これまで知らなかったミネルヴァがいる事を知るだろう。
恋というのはそういうもので、いつでも目の前に無数の扉があり、それを開く度に、また予想外の新しい世界に出会うのだ。

●右　0センチ
「【思わず微笑んで。
うっとりと、優しく尋ねる。
主人公が感じている事が、顔を見なくてもわかるので。
これまで通り、主人公を性的に煽りたい感情と、素直に思ったままを言っているのが半々で。
ミネルヴァは、今日の一件を非常に気にしている。
なので、仲直りのキスを経て、数日ぶりのセックスをしている今、いつも以上に主人公を喜ばせたい。

なので、まずは確実な一手を選んだ。
『これをすれば、主人公さんが気持ちよくなるのは当たり前よね。だって、これまですべてそうだったもの。なので、何も不思議じゃないわ』と言う気持ちで耳を攻めている】
ふふっ❤
可愛いお声……もう感じてしまったの？」

〈主人公〉
「だって、ミネルヴァがぁっ……❤」

たとえばこの、媚びたかすれた声。
少し前の主人公は、こんな声で甘える自分など想像もできなかった。
なのに今は、すっかり自分らしいと思うのだ。
自分はミネルヴァに気持ちいい事をしてほしい時、この声を出して次の声をねだる。
そういうふしだらでみっともなくて――でも、素直な自分がいる事を知っている。

●右　0センチ
「【うっとりと嬉しそうに。
とても優しく、今自分が主人公にどんな事をしているかを、わざわざ言葉で述べる。

今回は絶対に、いつも以上に主人公を気持ちよくしたいので。
先程と同様『これをすれば、主人公さんが気持ちよくなるのは当たり前よね。だって、これまですべてそうだったもの。なので、何も不思議じゃないわ』という気持ちではある。
しかし『これまでの経験からして、主人公さんは、今、自分が何をされているのかをお伝えしてあげると、なぜか、とても興奮なさるのよね。だったら、今日もして差し上げないと』と思って、してもいる】
そうよね。
お耳に悪戯するだけじゃなく。
我慢しきれない私の悪いお手手が、こうやって……❤
貴方のお乳をまさぐっているのですものね……❤
【うっとりと、とても嬉しそうに。
心底そう思って話している感じで。
主人公の胸を、ブラウス越しにまさぐったり、揉んだりしながら話している】
はぁ……柔らかい。
貴方の乳房より気持ちのいいもの、私、知らないわ……❤
【※しばらく※　耳舐めする。
うっとりと丁寧に、耳奥まで舌を入れてれろれろ舐める。
胸の触り方と連動して舐めているようなイメージで。

※実際にSEと連動するわけではありません。
そのような『イメージ』で舐めていただければ幸いです※】
はぁんむ……ちゅぱっ❤
れれれれれれ……くぽっ❤」

〈主人公〉
「ぁ❤　ぁ❤　あぁ❤」

●右　0センチ
「【※耳舐めしながら※　話す。
主人公の声に応えるように。
『ええ、あなたの大好きなのをしましょうね』と言っているのが聞き取りにくくなる】
へぇ……あなひゃの大好きなのをひまひょうね。
【一度耳舐めをやめて話す。
無意識のうちに『この部分は聞き取りやすくした方が、より喜んでいただけるに違いないわ』と思っているので】
お洋服越しにお乳の形を確かめながら。
お耳の穴を、沢山舐めて差し上げる。

【※しばらく※　耳舐めする。
先程よりもねっとりと、丁寧に。
しっかり音を立てて、耳奥まで舌を入れてれろれろ舐める。
胸の触り方と連動して舐めているようなイメージで。
※実際にＳＥと連動するわけではありません。
そのような『イメージ』で舐めていただければ幸いです※】
あぁんむ……れろれろ、ちゅぱっ❤
れれれれれれ……れるっ❤
じゅるっ❤　じゅぱっ❤　じゅるっ❤」

〈主人公〉
「あぁっ……❤」

こうして、主人公は落ちていく。
恋の喜び、愛の快楽のつまった不思議の国へ、落ちていく。

ミネルヴァ、『右０センチ』から『正面０センチ』に移動して話す。

●正面　０センチ

「【うっとりと嬉しそうに。
まだキスと耳舐め、それから服の上から胸を触る程度の事しかしていない。
なのに、すっかり甘い声を漏らし、蕩けきった顔を浮かべる主人公の事が、とにかく可愛らしいので。
『気持ちいいお顔』とは『感じている顔』の事】
ああ……❤
やっぱり貴方の気持ちいいお顔は、毎日見せて頂かないと駄目ね。
【※１回※　唇にキスする。
ちゅぽっと音を立てる、いとおしくてたまらないという感じのキス】
ちゅ❤」

〈主人公〉
「この……顔っ……？」

ミネルヴァ、会話するために『正面０センチ』から『正面１５センチ』に移動して話す。

●正面　１５センチ

「【うっとりと嬉しそうに。
ゆっくりと。
一行一行ごとの言葉が、どれもとても大切なものであり、主人公に絶対に伝えなくてはいけないものであるという感じで。
『このお顔』つまり『主人公の感じている顔』を見つめ、この顔について述べる。
全てとても素直な、心からの感想。
主人公を気持ちよくできている事が、自身の最上の喜びであるかのように。
ミネルヴァはそのような主人公の姿が見たくて、そのためなら、いくらでも主人公を攻め続けられるので。
『意識を手放してしまうまで、あんあんさせてあげたい』は『意識を失うくらい何度も喘がせ、絶頂させてあげたい』という意味】
そう……❤　このお顔よ。
沢山気持ちよくて、お目目をとろんとさせて。
私を期待の眼差しで見上げながら。
私の身体に、切なくお股を擦（こす）り付けて……❤
お腰を可愛く、ふりふりしながら求めてくる、そのお顔。
このお顔を見るとね、私、とても元気が湧くの。
それから……今日も、貴方が意識を手放してしまうまで、あんあんさせてあげたいって

思うの」

〈主人公〉

「……っ❤」

ミネルヴァ、『正面15センチ』から『左0センチ』に移動して『無声音ささやき』をする。

▲1　ここでSE4がフェードアウトする。

●左　0センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく

「【不意打ちでこそっとささやく。

とても優しく。

そっと、とても素晴らしい提案をするような感じで。

勿論、わざと嘘を言って、主人公に自分で脱ぐように促している。

ミネルヴァは、主人公が恥ずかしそうに自分から服を脱ぐのが好きだし、全部は脱がせずに、『半脱ぎ』くらいの状態でセックスするのが大好きなので。

主人公が今着ているのは、高級で、高価そうな装飾はあるものの、構造自体はシンプル

なブラウスだ。
なので、主人公からしても『複雑で、上手に脱がせる気がしない』ものではない事は明らかである。
ミネルヴァ自身、それを理解した上で言っている】
自分でお乳を出せる？
この服……少し複雑で。私、上手に脱がせる気がしないの……❤」※

〈主人公〉
「……もお、うーそ❤
絶対、うーそっ❤」

ミネルヴァ、『左０センチ』の距離のまま、一度普通の話し方に戻る。

●左　０センチ
「【くすくすと、嬉しそうに笑いながら。
ばればれの嘘を早速あまあまに指摘されて、だけどそれが嬉しくてたまらないという感じで。
今は、主人公とこんな風にじゃれ合いながらセックスする事が、何よりも嬉しいので】

嘘？　ふふっ❤
貴方がそう思うのなら、構わないわ……❤」

ミネルヴァ『左０センチ』の距離のまま『無声音ささやき』をする。

ＳＥ５　ミネルヴァが近づく音
【最初から最後まで流す】

●左　０センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【一つ前とは明らかにトーンを変えて。
優しく、でも有無を言わせない雰囲気で。
ブラウスを脱ぎ、裸の胸を見せるように促す。
主人公を喜ばせるために、意識してこうしているのと、自然とこの声音が出てきたのが半々で。
今のミネルヴァは、二人の関係における最初の大きな試練を乗り越えて、うまく説明できないが……なんだか以前よりも、ワンランクすごいミネルヴァになった。
今なら、昨日まではできなかった事もどんどんできる気がする。
それが不思議な余裕となり、自然と主人公を喜ばせられる力になっているので】

ほら……私、もう待ちきれないの。
早く、可愛い可愛い貴方の、がちがちに勃起した恥ずかしい乳首さんを、私に見せて……食べさせて頂戴？
【※特に聞き手と主人公をドキッとさせるイメージでお願いします※
優しく、ダメ押しのように言う】
ね？
【※1回※　キスする。
触れるだけの軽いキスだが、それがかえって飢餓感を呼ぶようなキス】
ちゅ❤」※

〈主人公〉
「……っ❤」

SE6　主人公がブラウスを脱ぐ音
【最初から最後まで流す】

困ったように目をそらし、言葉を詰まらせるふりをするのも、もはや単なるポーズだ。
主人公は見て欲しい。今の自分の身体を。

こんなに興奮して、こんなにミネルヴァを欲しがっている己の恥ずかしいところを、見て欲しいと強く願っている。

ミネルヴァ、『左０センチ』から『正面３０センチ』に移動して『無声音ささやき』をする。

●正面　３０センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく

「【うっとりと感嘆して。
喜びのあまり、ひそひそ話をするようにささやく。
もちろんここはホテルの部屋なので、そんな事をする必要はない。
だが、自然とそうなってしまう程、三日ぶりに見た主人公の胸は美しく可愛らしく、ミネルヴァの興奮を誘うので】
あぁ……凄い……❤
こんなに硬くして……❤
貴方の乳首さん、今にもいじめて欲しそうに、真っ赤に膨らんでるわ……❤」

だからすんなりそうしたら、ミネルヴァが目を爛々と輝かせてそう言った。
主人公の乳首が勃起している事が、とにかく嬉しくてたまらないようだ。

それもまた、主人公は嬉しくて、安心する。
主人公はミネルヴァとの行為で、誰かに自分の性欲を許してもらう事は、こんなにも心地いいのだと知った。
いけない事だと、ダメな事だと思っていた事が受け入れられ、それどころか、こんなにも喜ばれる。
そこにたとえようもない幸せがあるのだと、ミネルヴァに教えられたのだ。

ミネルヴァ『正面３０センチ』から『正面０センチ　下３０センチ』に移動して、主人公の乳首を舐める。

●正面　０センチ　下３０センチ
「【※１回※　乳首を舐める。
とても自然に、だが大胆に。
『目の前に主人公さんの乳首さんがあるから、当たり前のように舐めてしまった』と言う感じで。
胸を露出してベッドに座る主人公に、自分も座った状態で頭を近づけ、乳首を舐めている状態】
れーろっ❤」

〈主人公〉
「あぁっ……❤」

だから、主人公も許すし、喜んで行為にふける。
初めて会った頃は感情の一つも読み取れず、性欲どころか、他人への関心があるのかすら疑問だったこの女性の中にある、ぐつぐつに煮立った熱い欲望の餌食になる。

ミネルヴァ『正面０センチ　下３０センチ』から『正面３０センチ』に移動する。
それから主人公を見つめて、うっとりと言う。

●正面　３０センチ
「【うっとりと感嘆して。
主人公の反応が、あまりにも可愛らしいので。
まだ、ただ一回乳首を舐めただけなのに、こんなに感じてしまう程敏感で、また、自分のせいですっかり『セックス慣れ』した主人公の姿に興奮しているので】
あぁ……何て可愛い反応をなさるの？
私、いよいよ辛抱できないわ……❤」

ミネルヴァ、『正面３０センチ』から『左０センチ』に移動して『無声音ささやき』をする。

●左　０センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく

「【とても優しく。
そっと、とても素晴らしい提案をするような感じで。
これから自分がしようとしている事を述べる。
これから自分がしようとしている事を先に言葉にして聞かせる事で、主人公をたくさん興奮させて、喜ばせたいので。
今までにないほど積極的な奉仕の気持ちと、強い愛情が、ミネルヴァを突き動かしているので】

もう大丈夫よ。
いい子でお乳を出せたんだもの。
貴方のだぁい好きな、こちらの乳首さんをお口でちゅうちゅうしながら。
こちらの乳首さんを、お指でこねこねして。
乳房さんを沢山もみもみする、あれをしましょうね。
大好きでしょう？

貴方はおっぱいをいじめられると、すぐおまんこさんを濡らす、セックス大好きさんだものね……❤」

ミネルヴァ『左０センチ』から『正面０センチ　下３０センチ』に移動して、主人公の乳首にキスする。

●正面　０センチ　下３０センチ

「【※１回※　乳首にキスする。
軽くちゅぱっと、これから愛撫する事に関する、挨拶のようなキス】
ちゅ❤
【※しばらく※　乳首を舐めて、吸う。
いきなりねっとりと、しっかり、音を立てて舐める。
ためらいなく『自分がこれをしても、主人公さんは絶対怒らないどころか確実に喜ぶし、彼女自身、これを強く望んでいるはず』と確信している感じで】
はぁんむ……ちゅぱっ❤
れろれろ。れろれろ。れろれろ。れろっ❤
じゅるるるる……ちゅぱぁっ❤
れんろ……れんろ……れんろ。

れへんろ……❤」

〈主人公〉
「あ❤　ぁ……❤　ぁ❤　あっ……❤」

一つ喘ぐ度に、さらに深い階層へと潜っていくような気がする。
二人がしているのは、ただの、普通の、恋人同士のセックスだ。
そこに強い意味を感じているのは、主人公がミネルヴァの事を愛していて、もっと彼女を知りたくて、もっと自分を知ってほしいと思っているからだ。
あるかどうかもわからない、でも、この二人でなくては辿り着けないもっと奥の場所へ、行ってみたいと思っているからだ。

ミネルヴァ『正面０センチ　下３０センチ』から『正面３０センチ』に移動して、主人公を見つめながら、うっとりと言う。

●正面　３０センチ
「【うっとりと嬉しそうに、少しセクシーに。
どこかにやにやと、喜びを隠しきれない様子で。

主人公が自分の手によって感じている事が、何よりの喜びであるかのように。
乳首を吸うのは一度やめたが、今度は話しながら主人公の乳首を丁寧に愛撫している。
じっくりと顔を見つめ、主人公の反応を丹念に確かめながら愛撫している】
あぁ……いいお声。
ぐりぐりこねこね気持ちいいわね❤
ちゃぁんと、ずっと❤
【優しく、丁寧に。
乳首を愛撫しながら、動きと連動して話しているイメージで】
しこしこ❤　しこしこ❤　しこしこ❤
って、して差し上げますからね❤
【優しく嬉しそうに、うっとりと。
素直に、思ったままを述べる。
主人公が感じて、喜んでいる事が、とにかく嬉しくてたまらないので。
主人公にどんな事でもしてあげたいし、様々な姿を見たくて仕方ないので】
貴方は乳首さんをしこしこされると、腰が一杯動いてしまうものね❤
【うっとりと、でも少し残念そうにため息をつく。
この部屋は鏡が遠く、この位置へ置くのも難しい。
なので、主人公の身体をいろんな角度から見ながらする事ができないので】

……はぁ。
今日は鏡がなくて、見られない角度があるのが惜しいわ……❤
私、貴方がはしたなくお尻を振っておねだりする姿が、大好きなのに……❤」

〈主人公〉
「……！
もぉ❤　ミネルヴァのばか❤　ばかぁ……❤」

いやらしい言葉で揺さぶられ、実際にはしていない事を想像させられるだけで、心はさらに昂る。
脳のすべてが、今の行為に、否応なしに占められていく。

ミネルヴァ『正面３０センチ』から『正面０センチ　下３０センチ』に移動して、主人公の乳首にキスする。

●正面　０センチ　下３０センチ
「【※２回※　うっとりとため息をつく。
興奮気味の、ゆっくりとした呼吸】

んっふ❤
ふー……❤
【穏やかに、嬉しそうに。
主人公の『ばか』という言葉に応える】
……そうよ？　私はとっても愚かなの。
だって、貴方を嬉しくさせる為なら。
本当に何でもしたくて。本当に何でもできる気がするもの……❤
【※しばらく※　乳首を舐めて、吸う。
最初だけ、乳首にキスをする。
それから夢中で、かなり音を立てて舐め、吸う。
思いっきり舐めて吸いたいし、音を立てる事で主人公を興奮させたいので】
ちゅ❤
ちゅぱちゅぱ、ちゅぱちゅぱ、ちゅぱちゅぱ❤
れーろれーろ、れーろれーろ、れーろれーろ❤
【※1回※　うっとりとため息をつく。
かなり興奮気味の、ゆっくりとした呼吸】
はぁっ……❤
【優しく嬉しそうに、うっとりと。

素直に、思ったままを述べる。
もう我慢できないし、我慢しなくてもよくなったし、そもそも我慢していないという感じで。すっかり主人公の身体に夢中になっている】
貴方のお乳、本当に可愛い❤
【少し間をあけてから。
優しく嬉しそうに、うっとりと】
大好きよ……愛してる。
【※2回※　乳首を舐めて、吸う。
わざと音を立てて、主人公の興奮を煽ろうとする】
れへんろ……ちゅばっ❤
【とても優しく嬉しそうに。
そうする事こそが、この世で最も良い事のように言う。
『あんあん絶頂する』というのは『疲れるほどたくさん喘がせて、沢山絶頂する』という意味で言っている】
今日も沢山気持ち良くなって、あんあん絶頂しましょうね❤
【※2回※　乳首を舐めて、吸う。
うっとりと嬉しそうに、夢中で舐める】
んっふ。れぇろぉ……❤

【優しく、丁寧に。
乳首を愛撫しながら、動きと連動して話しているイメージで】
こねこね、こねこね。
ぐりぐり、ぐりぐり。ぐりぐり❤
【うっとりとため息をつく。
とても幸せそうに】
はぁっ……❤
【うっとりと嬉しそうに。
主人公が無意識のうちに自分の身体に股間を擦り付ける姿が、とにかく可愛らしいので】
こんなに擦（こす）り付けて……❤
【優しく嬉しそうに、うっとりと。
でも、少しだけ意地悪に。
心からの、素直な感想を述べる。
ミネルヴァはこの、普段の優しくて自分を包み込んでくれる主人公と、快楽にとことん弱くて、セックスの時はひたすら甘えてくる主人公のギャップがとにかく好きなので】
貴方はいつも優しくて、私を包み込んでくれるのに。
気持ちいい事には、とことん弱いわよね……❤
いいわ。

いけない事をしたお詫びに、今日は、沢山ご奉仕させて頂戴ね」

〈主人公〉
「……❤」

でも、主人公はここで、甘く息をつく。
二人の行為に、特に正解などはない。
ここまでずっとこだわってきた自分らしさは、ミネルヴァとのセックスの中では『すべて自分らしい事だ』と言える。

〈主人公〉
「……だめ❤」

それでも首を振るのは、主人公には伝えたい事があるからだ。
今日は、今日だけは、いつものように受け身のままでいるのはつまらない。
自分の方からも、もっと沢山愛情を表現して……もっと自分の気持ちを知ってもらう必要があると思うからだ。

ミネルヴァ『正面０センチ　下３０センチ』から『正面３０センチ』に移動して、主人公を見つめながら、うっとりと言う。

●正面　３０センチ

「【きょとんと不思議そうに。
まさか、主人公からそのような言葉が返ってくるとは思わなかったので。
また、なぜそのような事を言うのか、よくわからないので】
あら……？
【優しく、でも、少しセクシーに。
自分なりに、主人公の言わんとする事を想像して話す。
だが、そうする中で、主人公が恥ずかしがりそうな言葉も混ぜて話す。
主人公とのコミュニケーションによって、ミネルヴァも、こういった事ができるようになってきたので】
今日は一緒がいいの？
おまんこさんと、おまんこさんのセックスがしたいの？」

〈主人公〉

「うん……❤　今日は一緒❤　一緒のがいいの❤
絶対❤　絶対そうするの❤」

もう、すでに数えるのもばからしいくらいの『自分らしい声』を漏らせば、ミネルヴァが微笑む。
少し戸惑ったような、でも嬉しそうな……少女のような顔を見せて、頷いてくれる。

●正面　３０センチ
「【少し驚きつつも、喜びを隠しきれずに】
まぁ……❤
【少し間をあけてから。
嬉しそうに笑いながら。
少し戸惑いつつも、了承する。
まさか主人公から、そのような提案をされるとは思わなかったので。
だが、とても嬉しい。
自分も主人公と一緒に、快楽に溺れて、一緒に気持ちよくなりたいので】
……うん❤
いいわ。私も。

私も一緒に気持ち良くなりたい……❤」

SE7　ミネルヴァが少し離れる音
【最初から最後まで流す】
【だんだん離れていく】

ミネルヴァ『正面30センチ』から『正面50センチ』に移動する。
ベッドの上に座る形で、そのまま服を脱ぐ。

SE8　ミネルヴァが服を脱ぐ音
【最初から最後まで流す】
【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】

●正面　50センチ
「【※6回※　呼吸する。
ゆっくりと。
興奮気味に、服を脱ぎながら荒い呼吸をしている】
はぁ……はぁ、はぁ。

はぁ……はぁ。
はぁっ……❤
【※2回※　呼吸する。
ゆっくりとした、興奮気味の呼吸。
ここで下着を脱ぎ捨てているイメージで】
んっく……❤
ふー……っ❤」

SE9　ミネルヴァが下着を脱ぐ音
【最初から最後まで流す】

ミネルヴァ、下着を脱ぐと、スカートをたくし上げ、足を開いて自分の股間を主人公に見せる。
それはとても扇情的で、主人公はどきっとする。
これから自分たちはまた、誰にも言えないような事をするのだと、実感させられて呼吸と鼓動が早くなる。

●正面　50センチ

「【うっとりと興奮気味に。
でも、少し恥ずかしそうに。
主人公に、濡れそぼった自分の股間を見せつけているので。
そして、そこがどうなっているか、言葉でも教える。
ミネルヴァはまず衝動的にそうして、それから、もしかするとこれはとても恥ずかしい格好だったのではないかと気づく。
だが、主人公には見て欲しいし、よく知って欲しいので。
『ここ』とは自分の股間の事】
ほら……ご覧になって？
私のここも……貴方の事が可愛くて、愛おしくて。
【恥ずかしそうに照れ笑いしながら。
でも嬉しそうに】
こんなに濡れてしまったみたい……❤
早く貴方のおまんこさんとくっつけたくて、仕方なくなっているの」
ミネルヴァ『正面５０センチ』から『正面３０センチ』に移動して、主人公の服を脱がせる。

ＳＥ１０　ミネルヴァが主人公の服を脱がせる音
【最初から最後まで流す】
【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】

●正面　３０センチ
「【※１回※　呼吸する。
うっとりと興奮気味に、長めのため息をつく。
主人公の服を今日も脱がせるのが、とても嬉しいので。
今主人公が身に着けているものは、すべて自分が選んだものであり、それを脱がせているのもまた自分というのが、とても嬉しいので】
はぁぁ……❤
【穏やかに優しく。
母親が子どもに優しく言うようなイメージで】
貴方も、下着を取りましょうね。
ふふ❤」

ＳＥ１１　ミネルヴァが主人公の服を脱がせる音２
【最初から最後まで流す】

ミネルヴァ、そう言うと、主人公の下着に手をかけ、自分と同じ姿にするべく脱がしていく。
そして脱がし終えると、わざわざと目の高さまで持ち上げて広げ……濡れ具合を確認しようとする。
ミネルヴァは、この行為も大好きなのだ……。

●正面　３０センチ
「【うっとりと興奮気味に、長めのため息をつく。
主人公の下着が、色が変わるほどぐちゃぐちゃに濡れているので。
それを見て、とても安心している。
これは、主人公が感じて、興奮してくれている事の何よりの証拠なので。
『ここ』とは『股間』の意味】
あぁ……❤
ここも、貴方も一緒なのね。一杯濡らして……❤
とても可愛いわ。
【くすくすと嬉しそうに。
とても優しくからかう。

しかし、心からの素直な感想でもある。
嬉しくてたまらないので。
主人公が濡れていれば濡れているほど、ミネルヴァは幸せな気分になるので】
ふふ……❤　こんなに濡らして。
きっと、スカートに染みているのでしょうね」

〈主人公〉
「もぉ……❤　……恥ずかしい事、言わないで……❤」

SE12　ミネルヴァが主人公の服を脱がせる音3
【最初から最後まで流す】
【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】

●正面　30センチ
「【興奮気味でありつつ、穏やかに優しく。
母親が子どもに優しく言うようなイメージで。
『して差し上げます』とは『セックスをして差し上げます』の略】
ふふ。御免なさい。

私、こうなっている貴方を見ると、どうしても言わずにはいられなくなってしまうの。
……はい、脱げた。
今すぐして差し上げますからね」

こうして主人公は、またスカートを履いたまま下着だけを脱がされる。
ブラウスはご存じの通り胸だけが見えるように脱がされ、ミネルヴァ好みの、脱ぎかけの状態だ。
いつもなら、このまま両足を持たれ、好きにされるところだが……やはり今日はそうはいかない。
主人公はなんとか口を開き、この流れに逆らっていく。

〈主人公〉
「ま、待って……？」

●正面　３０センチ
「【きょとんと不思議そうに。
主人公がまた、何かを言おうとしているので】
うん？」

〈主人公〉
「今日は、わたしがするっ……❤
わたしが、上になって、ミネルヴァにっ……させて、ほしい❤」

●正面　３０センチ
「【少し驚きつつも、喜びを隠しきれない感じで。
ミネルヴァとしては、今日は完全に奉仕に回るつもりだった。
だが、主人公もまた同じように考えていてくれ、こうも積極的に提案してくれている事がわかって、とても嬉しいので】
あら……❤
今日は貴方が上に……？
【少し間をあけてから。
穏やかに、でも少し興奮気味に。
主人公の事が、とにかくいとおしくてたまらないという感じで】
可愛いのね……私の為に頑張って下さるの？」

〈主人公〉

「そぉっ……❤
今日はわたしにも、させていただきたいの。
わたしばかり気持ちいいなんて、いけないもの……っ❤」

●正面　３０センチ
「【※息づかいのみ※　で表現する。
静かではあるが、言葉にならないほど嬉しい、という感じで。
ミネルヴァは、感じている主人公を見るのが好きなので、極端な話、セックス中自分は気持ちよくなくても特に構わない。
だが、主人公はそれをよしとせず『一緒に気持ちよくなろう』と言ってくれる事が、とても嬉しいので】
……❤
【どきどきしながら、そっと自分の気持ちを打ち明ける。
こういった提案を受けるのは初めてではない。
それでも、まるで初めてのように嬉しいので】
ありがとう。
私も、貴方と一緒に気持ち良くなりたい……❤」

〈主人公〉
「うん……❤　一緒に気持ちよく、なりましょう……？」

主人公が動くと、ベッドがきしむ。
いつ聞いても恥ずかしい音だ。
こんな音、よっぽどベッドで暴れまわるか、セックスでもしようとしない限り鳴らないからだ。
だけどこの音を聞く度、ミネルヴァと主人公の距離は近づく。
だから幸せの迫る音でもあると、刷り込まれているこの身体は幸福だと思う。

SE13　主人公がベッドの上で動く音
【最初から最後まで流す】

SE14　ミネルヴァの股間の水音
【最初から最後まで流す】

ミネルヴァ、セックスするために『正面30センチ』から『正面50センチ』に移動して話す。

●正面　５０センチ
「【※３回※　呼吸する。
興奮気味のうっとりと気持ちよさそうな呼吸。
主人公が目の前に来て、自分の足を広げているだけではなく、主人公が上になる形の貝合わせセックスをしようとしているので。
とても興奮するし、自分のために頑張ろうとする主人公が愛おしいし、何より嬉しいので】
んっ……ふぅ……❤
はぁっ……❤
【優しくリードし、主人公に指南する。
なんだか嬉しそうに。
主人公はまだ、上になる事に不慣れなので。
そこで『その姿勢で間違いない』『自分はこういう格好になるので、主人公さんはこうしてくれるかしら』と伝える。
今日は再会してから主人公に頼ったり甘えたり、許してもらうばかりだった。
だが、セックス中は自分が多少リードできるので、とても嬉しい。
これまで積極的に攻めてきてよかったなと思う】

ええ、そうよ。
そのまま。私がこうやって後ろに手をつくから。
貴方は私の足を持って。
絡めて……重なって。動いてみて……？」

〈主人公〉
「わかっ……た❤」

SE15　主人公がベッドの上で動く音2
【最初から最後まで流す】
【かなり小さめの音量で流す】

SE16　主人公とミネルヴァの股間が触れ合う水音
【最初から最後まで流す】

主人公、ミネルヴァに導かれるままに上になる。
それから、ミネルヴァの片足を持ち上げて角度を調整する形で……自分と、ミネルヴァの股間を重ね合わせた。

つまり、騎乗位での貝合わせだ。

●正面　５０センチ

「【小さく、びくっと喘ぐ。

主人公と自分の股間が重なり合ったので。

正直な所、不慣れな主人公の行為なので『ものすごく気持ちいい』とはまだ言えない。

そのため、身体が感じている快楽はそれなりだが、心で感じている喜びはとても大きい。

それが喘ぎ声に繋がる】

あっ……❤」

ＳＥ１７　主人公とミネルヴァの股間がこすれ合う音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】

【最初はやや小さめな音量にする】

【▲２　で音量と速度が一段階大きく、早くなる】

【▲３　で一回分音量がとても大きくなり、その後▲２の大きさに戻る】

【▲４　で更に音量と速度がもう一段階大きく、早くなる】

【▲5　で音量とさらに一段階大きく、速度は一段階『ゆっくり』になる】
【▲6　で速度だけが一段階早くなる】
【▲7　でフェードアウトする】

●正面　50センチ
「【※8回※　呼吸する。
かなりゆっくり目の呼吸。
少し苦しそうで、気持ちよさそうな呼吸。
主人公がそのまま、お互いの気持ちいいところをうまく重ねようと動き始めたので。
ミネルヴァはまだこうされた経験が少ない。
そのため『主人公に攻められている』というシチュエーションだけで、物凄く興奮して、感じてしまうので】
はー……はー……。はー、はぁ。
ふうっ……❤
はぁ。はぁ。はぁっ……❤
んっ……❤
【うっとりと嬉しそうに。
主人公の性器を、自分の性器で感じている事が、たまらなく嬉しいので】

あぁ……凄い……❤

【うっとりと、少し意地悪に。
主人公の性器の濡れ具合について感想を述べる。
そこが予想通り、いや、予想以上に濡れていた事がとにかく嬉しく、言わずにはいられないという感じで】

……ぬるぬる。
滑（すべ）りが良すぎる位だわ……❤」

〈主人公〉
「ぁっ……❤　もう❤　言わなくて、いいからぁ❤」

●正面　５０センチ
「【※６回※　呼吸する。
ややゆっくりめの、少し苦しそうで、気持ちよさそうな呼吸。
主人公がそのまま、お互いの気持ちいいところをうまく重ねようと動き始めたので。
ミネルヴァはまだこうされた経験が少ない。
そのため『主人公に攻められている』と言うシチュエーションだけで、物凄く興奮して、感じてしまうので】

はぁ、はぁ、はぁ。
はー。はー。はぁっ……❤
【気持ちよさそうに、少し余裕なさそうに。
嬉しそうに意地悪を言う。
また、とても幸せそうに思ったままを述べる】
ふふっ❤　御免なさいね。
また意地悪を言ってしまったわね。
【嬉しそうに。
快感のあまり、少し苦しそうに、時々言葉が途切れる。
止められているのに、なおも主人公の性器の感想を述べる。
そこが予想通り、いや、予想以上に濡れていた事がとにかく嬉しく、言わずにはいられないという感じで】
ふふ。
おまんこさんをとろとろにできてっ、とても偉いのね……❤
貴方はセックスで沢山感じる準備が、とてもお上手ですものね……❤」

〈主人公〉
「……❤」

▲2　ここでSE17の音量と速度が一段階大きく、早くなる。

●正面　50センチ

「【※特に気持ちよさそうに※
びくっと、小さく喘ぐ。
少し驚くほど、とても気持ちいいところにあたったので。
怒った主人公に反撃されて、物凄く感じてしまったので】
っぁ……！

【※11回※　呼吸し、小さく喘ぐ。
少し早めの、とても気持ちよさそうな呼吸と喘ぎ。
怒った主人公にねっちりと攻められ、とても気持ちがいいので。
正直なところ少し油断していたのを『失敗した』と感じるくらい、とても気持ちがいいので】

はぁ、はぁ。ぁあ。
あっ、あっ。ぁあ……❤
あぁ、ぁ。あぁっ……❤
んっ……❤

はー、はー、はーっ……❤
【嬉しそうに照れ笑いする。
主人公に仕返しされる事も、気持ちよくされる事も、とにかく嬉しく、幸せなので】
ふふ❤
仕返しされてしまったみたい……❤」

ミネルヴァ、主人公に引き寄せられる形で『正面３０センチ』から『正面０センチ』に移動してキスをする。

――なんだか悔しい。負けていられないわ……。

主人公はそう思い、ますます行為に前のめりになっていく。

ＳＥ１８　主人公がベッドの上で動く音３
【最初から最後まで流す】
【ＳＥ１７と重ねて流す】

●正面　０センチ

「【※7回※　キスする。
主人公に一方的に攻められる、受け身のキス。
だが、うっとりとしていて、少し余裕がある。
『少し苦しいけれど、主人公さんに好きにしてもらえて幸せ』という感じのキス】
ん❤　んんんぅ。んぅっ……❤
んっ❤　んーっ……❤　んっ❤
んぅぅぅっ……❤
【うっとりとため息を漏らす。
主人公の事が可愛くて仕方ないので】
はぁぁ。可愛い……❤」

ミネルヴァ、『正面0センチ』から『左0センチ』に移動して『無声音ささやき』をする。

●左　0センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【うっとりと、熱っぽく提案する。
今のままでも意外なほど気持ちいい。
だが、もっと密着した、もっと幸福感の強いセックスをしたいので。
今の、少し距離のある体位から、密着した体位に変えようとねだる】

ねぇ、もっと貴方を感じたいわ。
もっとくっついてしましょう。
このまま覆い被さって……正面から、押し付けてみて……？」※

〈主人公〉
「……❤」

主人公が、恨めしそうにミネルヴァを見つめてみる。
今日こそ主導権を握るつもりで居たのに、実際は技量不足で、結局彼女に負けてしまいそうだからだ。
だけど、それもまた幸せな事のような気もする。
主人公は無言で頷くと、指示されたままに動き、今度は覆いかぶさる形で、貝合わせをした。

SE19　主人公がベッドの上で動く音4
【最初から最後まで流す】
【だんだん少し音量が大きくなる】
【SE17と重ねて流す】

▲3　ここでSE17の音量が一回分とても大きくなり、その後▲2の大きさに戻る。

●正面　15センチ

「【小さく、びくんと喘ぐ。
再びクリトリス同士が重なって、とても気持ちがいいので】
んっ……。
【※8回※　呼吸し、小さく喘ぐ。
ゆっくりとした、とても気持ちよさそうな呼吸と喘ぎ。
まだ余裕があるが、強い幸福感で、一杯感じているイメージで。
主人公が動きに慣れてきて、安定して気持ちよくなってきた。
主人公の動きとともに声が漏れるイメージで】
はぁ、はぁ、はぁ。
はー、はー、はー……んっ❤　ぁ❤
【低く、小さくびくっと喘ぐ。
とても気持ちがいいので】
あぁっ……❤
【うっとりとため息を漏らす。

想像以上に気持ちよく、幸せなので】
はぁ……❤
【※深く息を吐いてから※　話す。
うっとりと嬉しそうに、素直な感想を述べる。
『深く当たるわね』と言おうとして、途中で感じてしまい『んっ』と喘ぎ声が漏れる】
……凄い……❤
さっきよりも、深く当たる……んっ❤　わね❤
【※４回※　呼吸する。
先ほどよりも少し早く荒い、余裕のない呼吸。
主人公の動きが安定して気持ちいいのに加え、動かす速度が、少し早くなったので】
はぁ、はぁ。はぁ、はぁ。
【うっとりと嬉しそうに。
少し苦しそうな呼吸で。
とても気持ちがいいので。
主人公がミネルヴァの気持ちいいところを意識して動いている事が伝わってくるので】
ええ、そうよ。そこ……❤」

ＳＥ２０　ミネルヴァがベッドの上で動く音

【最初から最後まで流す】
【小さめの音量で流す】
【ぐっと一気に近づく】
【ＳＥ１７と重ねて流す】

▲４　ここでＳＥ１７の音量と速度がさらに一段階大きく、早くなる。

ミネルヴァが、主人公の腰を両手で抱いて引き寄せる。
主人公はやっぱり少し悔しい気持ちのまま、快楽に負けるふりをして、彼女の思うがままになる。

ミネルヴァ、『正面１５センチ』から『左０センチ』に移動して『無声音ささやき』をする。

●左　０センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【とても優しく、でもセクシーにささやく。
ミネルヴァなりの、心からのベストの提案をする。
二人でもっと気持ちよくなりたくて、自然にこの案が出た感じで】

こうやって、腰を抱いていて差し上げるから……❤
私のおまんこさんと貴方のおまんこさんが、もっと深くキスできるように……動いてみて？
【※しばらく※　呼吸し、小さく喘ぐ。
ゆっくりとした、とても気持ちよさそうな呼吸と喘ぎ。
まだ余裕があるが、強い幸福感で、一杯感じているイメージで。
主人公の動きとともに声が漏れるイメージで】
んっ。はぁ、はぁ……はぁ。
ぁ……❤
はぁ、はぁ。ぁ❤
んっ……❤
【とても優しく、でもセクシーにささやく。
既に問題なくうまいのに、まだ自信なさげな主人公を支えるように、優しく導く。
話しながら喘ぎが漏れ、言葉が途切れる】
ええ……そうよ、上手。
そのままっ……小刻みに上下して。ぅ合わせて。
好きなように、動いて見せて……？
【※しばらく※　呼吸し、小さく喘ぐ。

先程よりも少し早く荒い、とても気持ちよさそうな呼吸と喘ぎ。
少し余裕がなくなってきている。
主人公がミネルヴァに従った結果、さらに気持ちよくなってきたので】
はー、はー、はー。
はぁ……ぁっ……❤……ぁ❤
【低く、小さく喘ぐ。
ものすごく気持ちいいところにあたったので】
ぁ……❤
【うっとりと、漏れるように喘ぐ。
ものすごく気持ちいいまま、安定し始めたので】
いい……❤
いいわ……❤　凄い。
【※しばらく※　喘ぎ、呼吸する。
これまでよりも、喘ぎの要素が強くなってくる。
とても気持ちよさそうに、余裕なさげに喘ぎ、呼吸する。
ものすごく気持ちよくて、絶頂を意識するようになってくる】
……ぁ❤　ぁ❤　ぁ❤
はぁ、はぁ、はぁ❤

はぁ、はぁ、はぁ❤

【うっとりと、少し余裕なさげに。
このままゆっくり長い時間セックスしていたくもあるが、今はもっと強い快感を求めたい気持ちの方が強いので。
主人公を優しく励ましながら、自分からも動く事を提案する】

上手よ……上手。
私も……動くわね……❤」※

SE21　ミネルヴァがベッドの上で動く音2
【最初から最後まで流す】
【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】

●左　0センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【うっとりと、優しく提案する。
主人公の体温を手でも感じて、とても幸せそうに】
手を繋いでしましょう。
【※3回※　呼吸する。
とても気持ちよさそうで、少し苦しそうな呼吸】

ふーっ、ふーっ、ふーっ……❤
【低く、ごく小さく喘ぐ。
ものすごく気持ちがいいので】
……ぁ。
【※3回※　呼吸する。
少し荒く、とても気持ちよさそうで、苦しそうな呼吸】
はー、はー、はーっ……❤」※

〈主人公〉
「あっ……❤　ぁ❤　あーっ……❤」

▲5　ここでSE17の音量と速度がさらに一段階大きく、一段階『ゆっくり』になる。

●左　0センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【少し低い声で、うっとりと。
とても嬉しそうに。
主人公が特に感じる、特に弱い部分を探り当てたので。
その角度で固定して、このまましっかり愛撫できそうなので】

あぁ……ここね。見つけたわ。
ぐりぐりすると、いつも貴方が達してしまう所。
【※3回※　呼吸し、喘ぐ。
荒く早めの、とても気持ちよさそうで、苦しそうな呼吸】
はぁ、はぁ、はぁっ❤
【少し低い声で、うっとりと。
主人公が特に感じる、特に弱い部分を探り当てた状態で固定して、このまましっかり愛撫できそうなので】
今日は私のクリトリスさんで、擦（こす）ってあげるわね。
【※6回※　喘ぎ、呼吸する。
呼吸と喘ぎが半々。
荒く早めの、とても気持ちよさそうで、苦しそうな喘ぎと呼吸】
はぁ、はぁ、はぁっ。
あぁ、あぁ、あぁっ……❤
【少し低い声で、うっとりと。
主人公の気持ちいいところを探りあてて、かつ、かなり自信があるので】
ああ……これでしょう？
【※話すスピードは変えずに※

少し無邪気に、優しい声のまま、嬉しそうに攻める。
思いっきりぐりぐり押し当てながら、容赦なくイかせようとする動き。
身体を揺らして、その動きと連動して話しているイメージで】
ここよね？　ここ❤
ここ❤」※

〈主人公〉
「あーっ……❤　ぁ❤　ミネルヴァ❤　それっ❤　あーっ……❤」

だけどその時主人公がしたのは、快感のあまり、無意識のうちに逃げる事だった。
だけどそれを、ミネルヴァは許さない。
待ち構えていたかのように阻むと、耳元でこうささやいた。

●左　0センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【※特に聞き手と主人公をドキッとさせるイメージで※
優しくセクシーに、でも少し意地悪に。
主人公が感じるあまり、腰が逃げているので。
それを優しく指摘するとともに、少しだけ意地悪を言う。

そうする事で、もっと主人公が恥ずかしくなって、もっと気持ちよくなることを熟知しているので】

あら……気持ちいいの？
腰が逃げていてよ。
気持ちよくて、もう負けてしまったの？
いけない子ね」※

ＳＥ２２　ミネルヴァがベッドの上で動く音３
【最初から最後まで流す】
【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】

〈主人公〉
「あ❤」

ミネルヴァが、自らの両足で主人公の身体を抱く。
その格好のまま固定をし、主人公が逃げられないようにする。
そして、その姿勢のまま話す。
こうなれば、主人公は『今日も』お手上げだ。

今日もまた、彼女に快感を溺れるほどに注がれる未来だけが確定したのだ。

●左　０センチ

「【※特に聞き手と主人公をドキッとさせるイメージで※
優しくセクシーに、でも少し意地悪に】
ふふ。だぁめ。
そんな悪い身体は、こうやって、足で押さえてあげなくちゃ」

ＳＥ２３　ミネルヴァがベッドの上で動く音４
【最初から最後まで流す】
【だんだん近づく】
【次の『ミネルヴァ』のセリフと重ねて流す】

●左　０センチ

「【足で主人公の身体を固定しながら、腰だけを動かして話しているイメージで。
話しながら喘ぎ声が漏れる。
主人公を心から応援する気持ちと、意地悪を言って煽りたい気持ちが半々で。
どのみち、主人公を喜ばせて、自分も気持ちよくなりたい気持ちに変わりはない。

ミネルヴァは今、かつてないくらいにセックスを楽しみ、幸福を感じているので】
ほぉら、こうよ？
ちゃんと、うっ、当たるように擦（こす）り付けて。ね？
頑張って？
【※６回※　呼吸し、喘ぐ。
かなり苦しそうに、とても気持ちよさそうに。
余裕なさげに呼吸する。
主人公に『頑張って』と声をかけてはいるものの、自分も限界が近いので】
はー、はー、はー。
はぁ。ぁぁっ、はーっ……❤
【※特に聞き手と主人公をドキッとさせるイメージで※
優しく、でも余裕なさげに。
少し動きを速めているイメージで。
ミネルヴァも限界が近づいてきているので】
ほら……ここ❤
これが❤　貴方の一番感じる所よ……❤
【余裕なさげでありつつ、優しく言い聞かせる。
主人公が今のどのような体勢になっていて、これからどうなるかを、あらかじめ言葉に

する事で、主人公の興奮をあおろうとしているので。
もう、言葉にも容赦がない。
ミネルヴァも限界が近づいてきているので】
貴方は今日も、ここを可愛がられてイくの。
おまんこさん全体で私を感じて。
私の手で手を。
私の足で腰を押さえつけられて。
可愛い声でイくの❤」

〈主人公〉
「あ❤　ぁ❤　ミネルヴァ❤　ぁ❤　あぁっ……❤」

ミネルヴァ、『左０センチ』のまま『無声音ささやき』をする。

▲6　ここでＳＥ１７の速度だけがさらに一段階大きく、早くなる。

●左　０センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【余裕なさげでありつつ、少し意地悪に。

『ここ』つまり『主人公の一番気持ちいいところ』を、執拗に攻める
自分のクリトリスでぐりぐり押さえつけながら愛撫して、自分もイきそうな状態で話しているイメージで】
ほら、ここ❤　ここ❤
ここっ❤　こー、こっ❤
ほら、ほら。
ほーらっ……❤
【低く、うっとりと優しく。
何とか快感に耐えながら、嬉しそうに話す。
また、主人公への愛情と感謝の気持ちを述べる。
こんな状態になってなお、主人公が自分を気持ちよくしようと頑張っているのが伝わってくるので】
気持ちいいわね……私も気持ちいい。
貴方のクリさん、今にも達しそうなのに……私を気持ち良くしようと頑張ってる❤
可愛い……大好きよ。
【※6回※　呼吸する。
とても荒く早めの、とても気持ちよさそうで、苦しそうな呼吸】
はぁ、はぁ、はぁ。

はぁ、はぁ、はぁっ❤
【高めに、小さく喘ぐ。
一回ごとに、少し間があく。
ものすごく気持ちがいいので】
ぁ。
ぁ。ぁ。あっ。
【低く、小さく喘ぐ。
限界が近づいてきているので】
うっ……❤
【※6回※　呼吸と喘ぎをする。
とても荒く早めの、とても気持ちよさそうで、苦しそうな呼吸と喘ぎ】
はぁ、はぁ、はぁ。
はぁ、あぁ、あぁっ……❤」※

〈主人公〉
「あ❤　ミネルヴァ❤　わたし、もう❤」

ミネルヴァがだめ押しのようにささやき、今日の落下地点が見えてきた気がする。

きっとここはまだ最奥ではないのだろう。
それが見つかるのは、きっとまだ先の事なのだろう。
そう思いながら、主人公はミネルヴァと快楽の果てに落ちていく。

ミネルヴァ、『左０センチ』から『正面１５センチ』に移動して話す。
主人公の顔を見ながらしたいので。

●正面　１５センチ
「【※これまでで一番余裕なく、気持ちよさそうに。
優しく微笑みながらも、苦しそうに、ささやくように。
一緒に絶頂しようと提案する。実際にできるかはわからないが、今はそれをとてもしたくて、一緒に目指したいので】
ええ……一緒にイきましょう？
一緒に。一緒にイきましょう？
【※６回※　呼吸する。
とても荒く早めの、とても気持ちよさそうで、苦しそうな呼吸】
はぁ、はぁ、はぁ。
はぁ、あぁ、あぁっ……❤」

〈主人公〉
「あ❤　いく❤　ミネルヴァ❤　わたし、もういく❤」

●正面　15センチ
「【※少しだけ早口になって※
低く、とても優しく、ささやくように。
その位もう余裕がないので。
主人公に、絶頂するように促す】
ええ、ええ、いいわ。イって。
イって。イって。イって頂戴……？」

〈主人公〉
「あ❤　好き❤　ミネルヴァ好き❤　好き❤　好きっ❤」

●正面　15センチ
「【※少しだけ早口になって※
低く、とても優しく、ささやくように。

その位もう余裕がないので。
主人公に、一緒に絶頂してほしいと伝える】
私も……うっ❤
好き、好き。好き。好きよっ……好き❤
一緒に……一緒にっ……❤
【※もうすぐ、二人とも絶頂する※
低く、こらえるように喘ぐ。
主人公の絶頂が近づき、自分の感じる快感もすさまじいので】
うぁ。
【※低く濁音喘ぎ※　する。
びくっと小さく、漏れるように喘ぐ。
予想以上に気持ちがいいので】
〃あ❤
〃あ❤
〃あ❤
【※ここで主人公と一緒に、ミネルヴァも絶頂する※
高く、小さく喘ぐ。
さほど派手ではないが『イった』という事が明確にわかるような喘ぎ】

あぁぁぁぁっ……❤」

▲7　ここでSE17がフェードアウトする。

SE24　主人公がベッドで崩れ落ちる音
【最初から最後まで流す】

ミネルヴァ、『正面15センチ』から『左0センチ』からに移動して話す。
くたびれて力なくのしかかってくる主人公を正面から抱きかかえ、左耳に話しかける。

●左　0センチ
「【※10回※　呼吸する。
ものすごく荒く早めの、とても気持ちよさそうで、苦しそうな呼吸。
苦しそうだが、うっとりと幸せそうに。
段々整ってきて、ゆっくりになる】
ふーはーっ❤　ふーはーっ❤
ふーはーっ❤　ふーはーっ……❤
ふーはぁ、ふーはぁ、ふーはぁ、ふーはぁ❤

【うっとりと幸せそうに。主人公と一緒に絶頂できた事がとにかく嬉しく、幸せなので。
それは初めての経験ではない。
だが、ここまで心が通じて、深い交わりができたのは初めてなので】
あぁぁぁ……凄い。
一緒にイけたわね……❤
【甘く、念を押すように。
のしかかっている状態の主人公が、申し訳なさそうに身体を離そうとしてきたので。
『絶対にそうはさせない、このまま密着して寝る』という、現実的には難しそうなことを本気で言って甘える。
その位、今は主人公を離したくないので】
でもダメよ。でもダメ……❤
このまま、ぎゅーっとしたまま、休みましょう。絶対、離さないわ」

ミネルヴァ、『左０センチ』のまま『無声音ささやき』をする。

●左　０センチ　『無声音』ささやき　※マークのセリフまでささやく
「【※特に聞き手と主人公をドキッとさせるイメージで※
これまでで一番甘く、優しくささやく。

【研究者としても年上の女性としても主人公をリードするセクシーな雰囲気の声でありつつ、無邪気で甘えん坊な少女のような事を言う】

愛してる……私の可愛いお姫様。

ずっと……ずーっと一緒よ……❤」※

ここでフェードアウトして終了。